

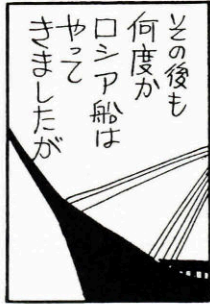
村田清風 十三

次建中

この年代を少し前にもどして話をすすめます



清風が生まれるより前、一七三九年ロシア船が安房沖に姿をあらわし大騒ぎとなりました



その後も何度かロシア船はやってきましたが



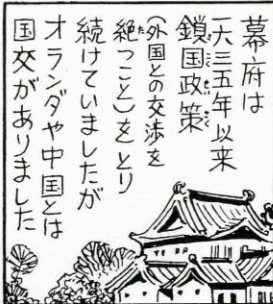
文化元年(一八〇四年)遭難してロシアに漂着した仙谷の漁師を送り届けに長崎へ来たロシア国使レザノフは



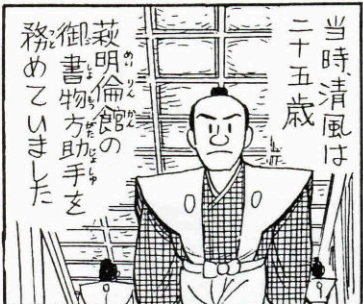
わが国王陛下からの使者としてお伝えしますロシアともぜひお付き合いを願いたい



徳川幕府に交易と開国をせまったのです



幕府は一六三五年以来鎖国政策(外国との交渉を絶つこと)をとり続けていましたがオランダや中国とは国交がありました



当時清風は二十五歳 菟明倫館の御書物方助手を務めていました



強大な力をみせつけ開国をせまる大國の脅威だ!



四方を海に囲まれたわが国は外国船からの攻撃には無防備にも等しい



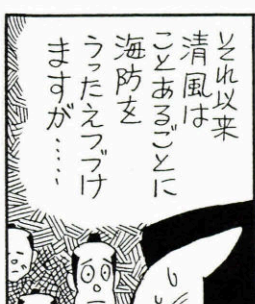
どうすればよいのだ



図書庫でみつけた林子平の海国兵談 これに興味深いことが書かれています



これを写しとって研究せねば



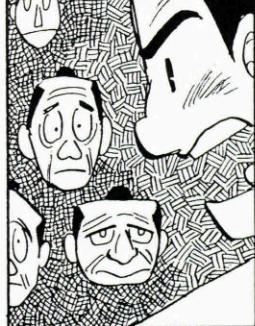
それ以来清風はことあるごとに海防をうたえつづけますが



平和でせいたくなく暮らした人々にはあまり関心がありません



読めば読むほど海防(海の守り)の重要性を痛感する



文化十年(一八一三)江戸



花見の酒にうがれてなんとンキなことよ



これがこの国の実能か!



サラサラ